## 読み方のコツ1　仮名遣い・古語・動作をしている人物

**入試の形**　大問二が古文。本文は約百五十～三百字で、横の現代語の注を本文に入れて読む。歴史的仮名遣いの問いは、入試に毎年ある。

一　**仮名遣いは「すべてひらがな」**　漢字を残さない。語の頭の「は・ひ・ふ・へ・ほ」は変えない。

二　**古語は前後から決める**　今と意味がちがう語がねらわれる。選択肢を傍線部に入れて読む。

三　**動作をしている人物**　登場人物に印をつける。「～て」でつながる動作は人物が同じことが多い。「～ば」「～に」「～ど」のあとは変わりやすい。

| 歴史的仮名遣い → 現代仮名遣い | | 例 |
|---|---|---|
| ① | 語の頭以外の**は・ひ・ふ・へ・ほ**<br>→ わ・い・う・え・お | あはれ→あわれ　いふ→いう<br>思ひ→思い　かへる→かえる |
| ② | **ゐ・ゑ・を** → い・え・お | ゐる→いる　こゑ→こえ<br>をかし→おかし |
| ③ | **ぢ・づ** → じ・ず | もみぢ→もみじ　よろづ→よろず |
| ④ | **くわ・ぐわ** → か・が | くわじ（火事）→かじ |
| ⑤ | **あう・かう・さう・やう**など<br>（ア段＋う）→ おう・こう・そう・よう | やうやう→ようよう<br>さうらふ→そうろう |
| ⑥ | **いう・しう**など（イ段＋う）<br>→ ゆう・しゅう | いうなり→ゆうなり |
| ⑦ | **えう・てう**など（エ段＋う）<br>→ よう・ちょう | てうど→ちょうど<br>けふ→けう→きょう |

| よく出る古語 | 意味 | よく出る古語 | 意味 |
|---|---|---|---|
| いと | たいそう | あやし | 不思議だ／身分が低い |
| げに | 本当に・なるほど | いみじ | たいそう・ひどい |
| やがて | すぐに・そのまま | めでたし | すばらしい |
| 年ごろ | 長年 | ありがたし | めったにない |

**問一**　現代かなづかいになおし、すべてひらがなで書きなさい。（1）かはら［　　］（2）こゑ［　　］（3）やうす［　　］

**問二**　播磨上人（はりまのしやうにん）、衣裳（いしやう）を思ひ煩（わづら）ひて（着るもののことで悩んで）、高野（かうや）（高野山）を退出す。大門のほとりにて、鹿の冬毛に㋐生ひ変はりたるを見て、㋑立ち帰りて住山（山に住み続ける）、云々（ということだ）。（『一言芳談抄』による）

右の文章の㋐・㋑の動作をしているものの組み合わせを、次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。［　　］

ア　㋐鹿　㋑鹿　　イ　㋐上人　㋑鹿　　ウ　㋐鹿　㋑上人　　エ　㋐上人　㋑上人

# 解答（答えと短い解き方）

## 歴史的仮名遣い 入試① 仮名遣い・古語・動作をしている人物

### コツ1の確かめ

**問一**　（1）かわら　（2）こえ　（3）ようす

（1）語の頭以外の「は」→「わ」。（2）「ゑ」→「え」。（3）「やう」は「ア段＋う」なので「よう」。

**問二**　ウ

「見て、立ち帰りて」と「て」でつながるので、見た人と帰った人は同じ（上人）。

### くわしい解き方は創心館出版の攻略テキスト（別冊解答）に載っています。

古文の本文の一部は、やたがらすナビ（https://yatanavi.org/）の次の校訂本文をもとに、表記を改め、一部を省くなどして使っています。
中川聡／Satoshi Nakagawa『一言芳談抄』 https://yatanavi.org/text/ichigonhodan/index.html（CC BY-SA 4.0）
これを改めた古文の本文（注・問題・解説はふくみません）は、同じCC BY-SA 4.0 で提供します。
CC BY-SA 4.0 の内容： https://creativecommons.org/licenses/by-sa/4.0/deed.ja